

4月18日（火）に本校6年生79名を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査では、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施しており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数)

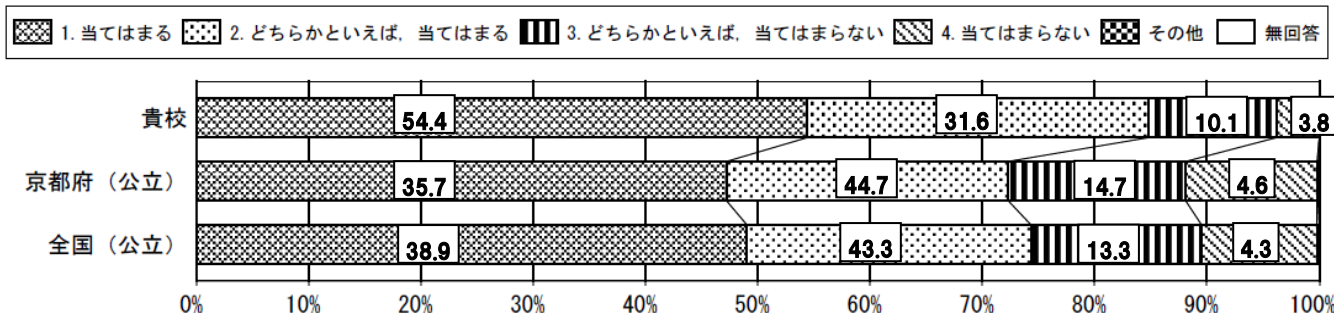
国語・算数のテストでは、これまでの学習で身に付けておかなければならない基礎・基本の力を問うA問題と、自分もっている知識や技能等を様々な場面で活用する力などを問うB問題がありますが、本校は、国語・算数ともに、全国平均、京都府平均を上回りました。問題形式別で見ると、記述式問題の平均点が高いことから本校が研究で取り組んでいる生き方探究教育を通して、自分の考えをまとめ、表現する力が身に付いてきていると言えます。

国語科より

A問題もB問題も全体的によくできていました。

A問題では、「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合う」（設問番号1）と「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む」（設問番号3）が全国平均を大きく上回りました。一方で、「手紙の構成を理解し、後付けを書く」（設問2二）と「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」（設問7【6】）は全国平均を下回りました。その他の漢字の読み書きの問題についても、全国平均と同等の正答率でした。こうした結果から、漢字を読んだり書いたりする力をもっと付けていく必要があると考えます。子どもたちのノートや書いた文章を見ていると、これまでに学習した漢字を平仮名で書いている様子がよく見られます。漢字を読んだり書いたりする力を付けるために、国語の授業だけでなく、様々な学習場面を通して、これまでに習った漢字を活用することを意識付けしていきたいと思えます。

B問題は、全ての問題で全国平均を上回りました。「書くこと」の領域においては、「目的や意図に応じ、引用して書く」（設問番号2二）と「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」（設問番号2三）が全国平均を大きく上回りました。また、「読むこと」の領域においては、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」（設問番号3一）と「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」（設問番号3二）が全国平均を大きく上回りました。文章を読んで作者や筆者の述べたい内容や要旨を捉えたり、心に残ったことや文章を読んで考えたことを書きまとめたりする学習を大事にしていることが書く力や読む力の向上につながっていると考えます。質問紙でも、「読書は好きですか」という質問に対し、本校では8割以上の子どもたちが「好き」「どちらかといえば好き」と答えており、読書への関心の高さが読む力の向上に関わっていると考えられます。



算 数 科 よ り

国語同様に、算数のA問題・B問題も全国、京都府の平均を上回りました。

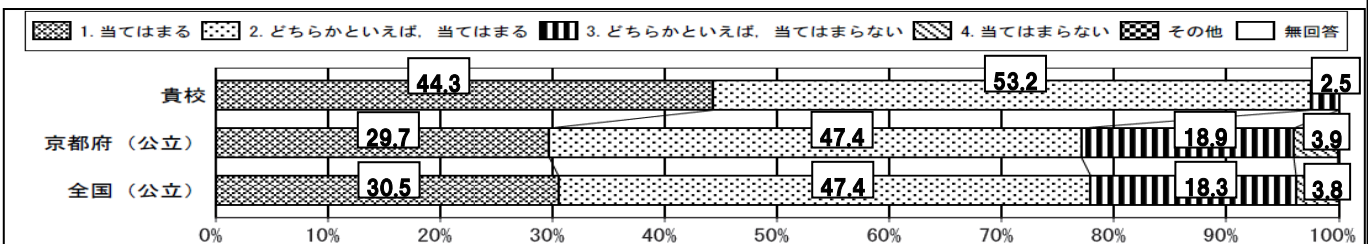
A問題では、「1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる」（設問番号1【2】）と「重さ、長さの任意単位による測定について理解している」（設問番号4）が全国平均を大きく上回りました。一方で、「具体的な問題場面において、乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解している」（設問番号1【1】）と「2つの最小公倍数を求めることができる」は、わずかではありますが、全国平均を下回りました。この2つはどちらも「数と計算」の領域の問題であり、基礎的な内容と言えます。子どもたちの様子を見てみると、学習した時にはできていても時間が経つとやり方を忘れてしまっている様子が見受けられます。朝学習や宿題にきちんと取り組むことはもちろんですが、家庭学習においても、これまでに学習した内容を繰り返し復習することで基礎的な内容についての理解を深めてほしいと思います。

B問題では、全ての問題で全国平均を上回りました。特に、「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述できる」（設問番号3【2】）と「示された式の中の数の意味を、表と関連させながら正しく解釈し、それを言葉を用いて記述できる」（設問番号4【1】）が全国平均を大変大きく上回っていました。普段の授業の中で、問題に出てくる数字が何を表しているのかという意味を考えたり、問題に対する自分の考えを絵や図などを用いて聞いている人に分かりやすく説明したりする経験を低学年の時から積み重ねていくことがこのような結果に繋がったのではないかと考えます。

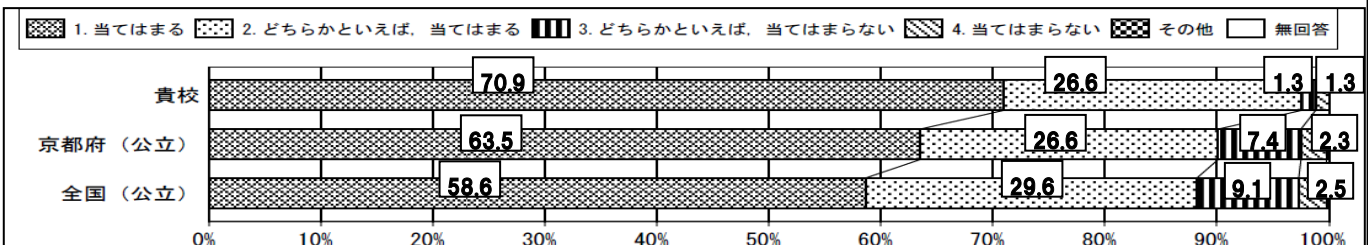
今後は、基礎的・基本的な内容であるA問題でももっと力を伸ばしていくことができるように、既習事項の復習にもしっかりと取り組んでいきたいと思います。

児童質問紙調査から

Q1. 5年生までに受けた授業では、先生から示された課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q2. 5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。



質問紙調査Q1の結果から分かるように、97%以上の子どもたちが、取り組むべき課題が明確であると、自ら考え、自ら進んで取り組むことができていると答えています。その背景には、本校が生き方探究教育の中で大事にしている、「子どもたちが見通しをもって活動に取り組めるようにねらいを明確にした授業」を実践してきていることが大きく関わっていると考えます。今後も、めあてやねらいを毎時間きちんと提示し、子どもたちが課題解決に向けて自ら意欲的に取り組めるように授業を工夫していきたいと思います。こうした学習を積み重ねることで、これからの人生の中で困難にぶつかった時にも自分の力で解決できる力を身に付けていってほしいと思います。